

関 係 各 位

(社) 日 本 ト ラ イ ア ス ロ ン 連 合 : J T U

理 事 長 荒 井 憲 二

強 化 本 部 長 三 宅 義 信

(公 印 省 略)

2 0 0 6 年 I T U ワ ー ル ド カ ッ プ 石 垣 島 大 会
日 本 代 表 選 手 第 1 次 追 加 発 表

「 * 」 印 第 1 次 追 加 発 表 選 手

[出 場 内 定 選 手]

- < 女 子 > 庭 田 清 美 (ア シ ッ ク ス ・ ザ バ ス / 千 葉)
関 根 明 子 (N T T 東 日 本 ・ N T T 西 日 本 / 東 京)
上 田 藍 (グ リ ー ン タ ウ ー ・ 稲 毛 I T C / 千 葉)
中 西 真 知 子 (N T T 東 日 本 ・ N T T 西 日 本 / 千 葉)
忽 那 静 香 (日 東 紅 茶 T E A M K E N ' S A & A / 東 京)
高 木 美 里 (湘 南 ベ ル マ ー レ / 神 奈 川)
高 橋 梨 香 (ト ヨ タ 車 体 / 愛 知)
古 谷 あ か ね (ト ヨ タ 車 体 / 和 歌 山)
田 中 敬 子 (チ ー ム ゴ ー ヤ ー / 福 岡) 以 上、 9 名
- < 男 子 > 山 本 淳 一 (K ' s - Y ・ 稲 毛 I T C / 千 葉)
細 田 雄 一 (グ リ ー ン タ ウ ー ・ 稲 毛 I T C / 千 葉)
山 本 良 介 (ト ヨ タ 車 体 / 京 都)
平 野 司 (関 西 大 学 / 学 連)
西 内 洋 行 (福 島 県 ト ラ イ ア ス ロ ン 協 会)
田 山 寛 豪 (チ ー ム テ イ ケ イ / 兵 庫)
高 濱 邦 晃 (日 本 食 研 / 愛 媛) 以 上、 7 名

[強 化 本 部 推 薦 対 象 選 手 (女 子 2 名、 男 子 3 名)]

- < 女 子 > 志 垣 め ぐ み (旭 化 成 L & L 株 サ ン ラ ッ プ / 宮 崎)
大 松 沙 央 里 (ト ヨ タ 車 体 / 愛 知)
下 村 真 紀 (N S I / 兵 庫)
太 田 麻 衣 子 (東 海 大 学 / 学 連)
長 谷 川 麻 弥 (東 北 大 学 / 学 連)
沢 田 愛 里 (北 海 道 ト ラ イ ア ス ロ ン 連 合)
浅 沼 美 鈴 (愛 知 県 ト ラ イ ア ス ロ ン 協 会)
蔵 本 葵 (東 京 ヴ ェ ル デ ィ / 埼 玉) 以 上、 8 名
- < 男 子 > 菊 地 次 郎 (山 形 県 ト ラ イ ア ス ロ ン 協 会)
杉 本 宏 樹 (チ ー ム テ イ ケ イ 練 習 生 / 兵 庫)
岩 田 聡 (セ ン ト ラ ル ス ポ ー ツ / 千 葉)
益 田 大 貴 (湘 南 ベ ル マ ー レ / 神 奈 川)
平 松 幸 紘 (立 命 館 大 学 / 学 連)

佐藤治伸（日本食研／愛媛）
岩井信二（愛媛県トライアスロン協会）
犬童太一（東京ヴェルディ／学連）
山本祐樹（宮崎県トライアスロン連合）
馬立賢治（明治大学／学連）＊
東野 翔（関西大学／学連）＊
竹内鉄平（愛知県トライアスロン協会）＊ 以上、12名

（以下、選考基準）

（１）JTU強化指定S・A・B選手（期間：2006年1月から6月）

JTU強化指定選手制度（20歳以上）（期間：2006年1月－6月）参照

（２）2005第11回日本トライアスロン選手権東京港大会での成績優秀選手

選出人数：上記、選考基準（１）と（２）から、最大8名（ ）を選出

選出時期：ITUワールドカップ・ニュープリモス大会（2005年11月13日）

終了以後

（３）強化本部推薦（女子2名、男子3名）

上記対象選手の中で「認定記録会」において基準タイムを超えた選手のうち、基準タイムの上位記録順に内定（男女各2名以内）とする。

<対象選手>

上記（A）（B）いずれかに該当する選手を対象とする。

（A）JTU強化指定C選手（期間：2006年1月－6月）

（B）2005年日本選手権東京港大会15位以内（但し、1位男子の5%以内、1位女子の8%以内）

（C）2006年JTUジュニア強化指定S選手（追記事項）

<認定記録会実施時期>

2005年11月から石垣島大会の4週間前迄。

<認定記録会基準タイム>

「スイム400m×2＋ラン5km」の合計タイムで5級（男子；合計タイム24分33秒、女子；合計タイム27分41秒）

（ ）補足事項

1．女子については、基準（１）の強化指定S・A・B選手までが9名となったため、そのまま9名の選手を日本代表選手として内定し、さらに2名の選手を認定記録会から選出し、ITUが認めた場合11名の最大参加枠とします。

2．男子については、基準（１）の強化指定S・A・B選手までが7名となったため、7名の選手を日本代表選手として内定し、さらに3名の選手を認定記録会から選出し、ITUが認めた場合10名の最大参加枠とします。 以上